

○公的医療機関等 2025 プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

愛知医科大学病院
<p>【地域において今後担うべき役割】（P14）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学病院・特定機能病院・高度救命救急センター・がん診療拠点病院として高度急性期・急性期病床の機能を維持し、高度・先進医療、救急医療、周産期医療などの特殊医療や不採算医療の供給を継続して行っていく。 2) 当院が保有している高精度放射線治療装置、PET-CT、3T MRI 装置、ハイブリッド手術室、ダヴィンチ、高機能 ICU などの医療資源を有効活用する観点から、地域における活用方策を検討する。 3) 高度急性期・急性期病院としての機能を更に発揮するため、地域での回復期病床機能を有する病院との連携の協議を進めて、シームレスな連携を行っていく。 4) 地域医療連携の強化のため、医師・看護師を始めとする医療スタッフの養成・派遣やキャリア支援研修、情報発信などの強化を図る。とりわけ、入院・外来・在宅における切れ目のない在宅医療支援のため、地域連携看護研修センター（仮称）を設置して在宅医療に関わる人材育成のための研修等の強化を図る。 5) がん治療に関し、高精度放射線治療装置による治療件数の拡大、ダヴィンチによるがん手術治療疾患の拡大など高度専門医療の拡大を図り、地域医療ニーズに対応していく。 6) 脳卒中の治療に関し、脳血管内治療センターの設置、専門医の増員により、脳血管内手術などの高度救命救急医療の更なる充実を図り、地域医療ニーズに対応していく。 7) 心血管疾患の治療に関し、血管撮影装置の増設、運営スタッフの増員を図って急性心筋梗塞等に的確に対応するなど高度救命救急医療の充実を図っていく。 8) 糖尿病対策に関し、糖尿病療養指導士、管理栄養士等、各専門職で連携した保健指導、歯周病に関する研修等の強化を図る。
<p>【今後持つべき病床機能】（P14）</p> <p>当院は、大学病院・特定機能病院であり、高度急性期病床・急性期病床の機能を維持していく。なお、従来、病床機能報告において院内の病床を全て高度急性期機能として報告してきたところ、病床機能分類の趣旨に副って、高度急性期病床は ICU 系病棟の 87 床と一般病棟の 18 病棟の 713 床を合わせた 800 床とし、これ以外の一般病棟の 2 病棟の 53 床は急性期病床に変更することについて検討する。</p>

【今後の方針】（P15）

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	853	→	800
急性期			53
回復期			
慢性期			
(合計)	853		853

<（病床機能の変更がある場合）具体的な方針及び整備計画>

当院は特定機能病院であり、高度急性期機能・急性期機能を維持していくものとするが、従来の病床機能報告においては院内の病床を全て高度急性期機能として報告してきたところ、病床機能分類の趣旨に副って、高度急性期病床は ICU 系の 87 床と一般病棟の 18 病棟の 713 床を合わせた 800 床とし、これ以外の一般病棟の 2 病棟の 53 床は急性期病床に変更することについて検討する。

なお、この病床機能の変更に当たっては、高度急性期・急性期病床内での機能区分の変更であり、地域医療構想調整会議における協議・合意をいただく必要はないと考えられる。

【その他の数値目標】（P16）

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 95%
- ・ 手術室稼働率： 70%
- ・ 紹介率： 85%
- ・ 逆紹介率： 70%